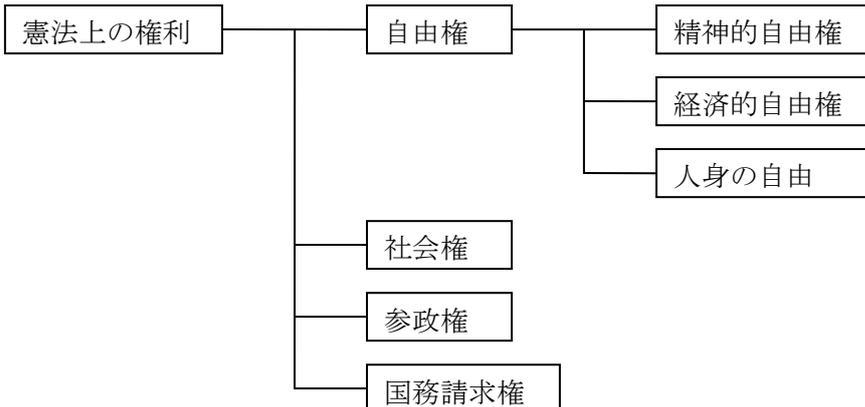


自由権と社会権の違いについて

一 人権の分類

*人権は4種類に大きく分かれ、そのうちの1つは、さらに3種類に分けられる(したがって、人権は全部で6種類に分けられることになる)。以上の分類関係を、それぞれの種類の名称とともに、図に示すと以下のようなになる。



自由権…個人の私的領域への国家権力の介入を排除し、個人の自由を保障するための人権。その意味で(①国家からの自由/国家による自由)とも言われる。自由権の内容は、(②)、(③)、(④)に分けられる。(②)の例としては表現の自由、(③)の例としては職業選択の自由、(④)の例として残虐な刑罰の禁止などがあげられる。

社会権…(⑤資本主義/社会主義)の進展とともに生じた社会的・経済的弱者を保護し、それによって自由な人権主体を維持するための人権。社会権は、(⑥国家からの自由/国家による自由)とも言われ、社会的・経済的弱者が「人間に値する生活」を営むことができるように、国家の(⑦消極的/積極的)な配慮を求めることの出来る権利である。具体的には、生存権、教育を受ける権利、労働基本権などがあげられる。

① _____ ② _____ ③ _____

④ _____ ⑤ _____ ⑥ _____

⑦ _____

二 自由権と社会権の違い

・自由権は「国家からの自由」を求める権利。国家からの介入や干渉を拒むというのが基本的な考え方。裁判で自由権が問題となる状況は、国民の行動に公権力が法律などにより規制・制限を課したり、刑罰を科すべく訴追したりする場面である。

→自由権は、国家の(⑧不作為／作為)を請求する権利である。したがって、自由権が侵害されたと争われる訴訟では、国の(⑨不作為／作為)が問題となることが多い。自由権を保障するため、国は「消極的」であることが求められている。自由権の訴訟では、国が「やってはいけないことをやったこと」(21条で検閲は禁止されているのに、検閲を経なければありとあらゆる出版物は公表できないという法律をつくってしまう)「やってもいいが、やりすぎてしまったこと」(21条の表現の自由と13条で保障される名誉権の衝突を調整するため、名誉毀損罪を刑法で設けること自体は合憲だが、あらゆる表現行為を名誉毀損罪で有罪とすることまでは許されない)が問題になる。社会権よりは自由権のほうが、訴訟で勝ちやすい(例えば、薬事法違憲判決、森林法違憲判決など)。

・社会権は「国家による自由」を求める権利。社会的・経済的弱者が国家の積極的な介入を求めるというのが基本的な考え方。裁判で社会権が問題となる状況は、国が、憲法が命令している「積極的な義務」を果たしていない場面である。

→社会権は、国家の(⑩不作為／作為)を請求する権利である。したがって、社会権が侵害されたと争われる訴訟では、国の(⑪不作為／作為)が問題となることが多い。社会権を保障するため、国は「積極的」であることが求められている。社会権の訴訟では、憲法が命じている「積極的な義務」のレベルがどの程度か(そのレベルについて憲法の条文が、どれだけ明文ではっきりと示しているかは個々の社会権によって異なる)、ということをめぐる争われることが多いが、そのレベルの設定は国の裁量に委ねると裁判で判断されることがおおく、裁判では負けることが多い。社会権では、国が「やるべきことをやっていない」(26条で義務教育は無償とされているのに、無償の義務教育制度を整備していない)「やるべきことを一応やってはいるが、憲法が命じているレベルまで達していない」(25条が福祉国家を命じていることにしたがって、福祉制度を一応整備してはいるが、生活保護制度を利用しても「健康で文化的な最低限度の生活」を送ることの出来ない人がいる)が問題となる。社会権は、訴訟では負けることが多い(朝日訴訟、堀木訴訟)。

⑧

⑨

⑩

⑪

答え

- ①国家からの自由 ②精神的自由権 ③経済的自由権 ④人身の自由
⑤資本主義 ⑥国家による自由 ⑦積極的
⑧不作為 ⑨作為 ⑩作為 ⑪不作為